

○次期総合計画前期基本計画（案）に対するご意見の概要及びご意見に対する考え方

1件：1人

No.	該当箇所	意見等の内容	ご意見に対する考え方
1	分野別計画 2-2 道路	<p>今後平泉やILC誘致によって国際化を進めていく計画であることは、計画書からも感じられる。また、現在様々な地区で道路工事が行われており、私の近所では通学路と通勤道路が重なり児童にとって危険だった区間の交通量が激減した。</p> <p>しかし最近開通したバイパスなどを使ってみて感じるのは、その区間は快適に走れるが、そこへの接続する場所が合流しにくかったり、さらに信号が追加されたりして結果的に渋滞が発生し、以前の道が抜け道として使われているという現状である。</p> <p>そこで、以下の2点を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環状交差点(ラウンドアバウト)の活用 渋滞が起きにくい、信号機が要らない等のメリットがあるが、最大のメリットは交差点ごとに徐行または停止するため暴走の抑制につながることである。私は欧州で数ヶ月運転を経験し、そのメリットがとても大きいことを実感した。もちろんデメリットもあるのでまずは旧市町村ごと等で迂回可能なルートに設置して調査することが必要と考える。また歩行者配慮意識が低い日本ではその対応も重要である。</li> <li>・歩行者重点区間の一車線化 交通量が少ないまたは少なくなったにもかかわらず歩道がない道路で、歩行者が比較的多い道路に有効と考える。歩道を広く取り、明確に色分け等をし一定区間でポール等を設置する。車道はセンターラインをなくし、すれ違う際は歩道を踏まなければならない程度にする。そうすることで通行スピードを抑制することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環状交差点(ラウンドアバウト)の活用 環状交差点(ラウンドアバウト)は、欧米の多くの国で導入されており、交通量が一定の条件下において安全かつ円滑な道路交通を確保することができるとされ、近年、国内でもニーズが高まりつつあります。しかし、実証データが少ないことや設計基準がないことなどから、実用展開につながらないのが実情です。 ご意見のありました環状交差点の活用については、市では現在のところ具体的な計画はありませんが、国が行う社会実験の推移や先進事例等を注視しながら、今後、検討してまいりたいと考えております。</li> <li>・歩行者重点区間の一車線化 ご提案の手法につきましては、市でも大東地域と一関地域の萩荘地区において、幅員が狭く歩道の設置が難しい道路で、車道のセンターラインをなくして路側を広く取り、カラー舗装とポールを設置して歩行空間の確保を行っております。 萩荘地区では地元から要望があり地元と意見交換し事業を行ったものですが、車両速度の抑制に効果があったと喜ばれています。 今後も道路整備にあたって、歩道の設置が難しい箇所などで市民のみならずと連携しながら同様の手法を検討し、安全・安心で快適な道路環境づくりに努めてまいります。</li> </ul> <p>提案いただいたご意見につきましては、分野別計画2-2道路○施策の展開(3)安全安心で快適な道路環境づくりにおいて、具体的な事業を実施する際の参考とさせていただきます。</p>